

# あわら市都市計画マスタープランを改定しました

## 1 都市計画マスタープランとは

あわら市都市計画マスタープランは、主にまちづくりの分野において、都市の将来像とこれを実現していくための方針を定めたものです。  
市民一人ひとりがまちづくりに対する意識を持ち、市民同士、市民と行政が話し合い、ともに進めるまちづくりを目指しています。



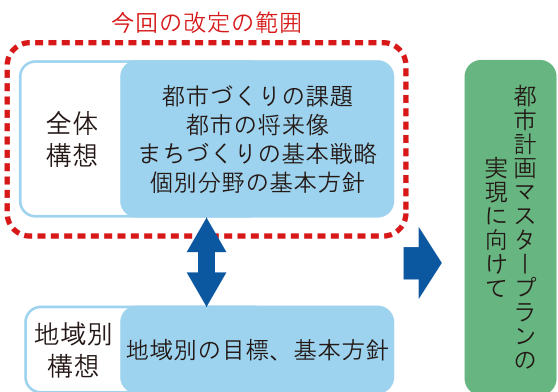
2006年(平成18年)に最初の計画を定めましたが、今回は、中間年度での検証を行いました。

### (1) 役割

- ① 目指すべき都市の将来像を明らかにする
- ② 都市計画やまちづくりの総合的な指針となる
- ③ 市民と行政がともに進めるまちづくりの指針となる

### (2) 構成

- ① 全体構想  
⇒ 都市全体のまちづくりの方針
- ② 地域別構想  
⇒ 地域づくりの基本方針
- ③ 実現に向けて  
⇒ 実現に向けての具体的な方針



## 2 あわら市の都市の将来像と目標

都市の将来像とは、目標年度(2025年度)の「将来の都市の姿」を示すものです。次の将来像を掲げ、市民と行政が力を合わせてまちづくりに取り組みます。

### 多彩な自然と温泉情緒が誘う生活感動都市

豊かで多彩な自然環境、歴史文化と創造的な芸術文化、温泉情緒が息づく地域固有の資源を踏まえ、住む人も観光客も継ぎ目なく心地よい空間が体感でき、魅力と活力が凝縮した都市の創造を目指します。

- (1) 多彩な自然と温泉情緒
- (2) 誘
- (3) 生活感動都市

森林、海岸、湖、河川、丘陵地、田園という豊かな自然のフィールドを舞台に、市民がいきいきと生活し、自然体験や芸術文化の創作活動、歴史や文化の探訪、温泉情緒を日々、満喫できるまちを目指します。  
季節の移りや日常生活を通じて、住む人に日々小さな感動を誘い、美しい風景を通じて、訪れる人に新鮮な感動を誘うまちを目指します。  
生涯にわたって住み続けたいと思える生活空間と豊かなコミュニティがあり、かつ、この地を訪れる人が何日も滞在したくなるような、もてなしの心が宿る場所がある「永住」と「滞在」のまちを目指します。

1 環境、土地利用、景観  
都市の最も基礎となる自然環境は、次世代に受け継ぐべきかけがえのない資源として保全するとともに、多彩な特性を生かした美しい景観のまちづくりを目指します。

2 農業、商業、観光、工業  
地域資源を生かし、農業や商業、工業、観光の相互連携により、活力が実感できる永住型のまちづくりおよび来訪者に感動をもたらす滞在型のまちづくりを目指します。

3 市街地、住環境、公園・緑地、都市機能  
豊かな自然を背景に、居住機能と生活を支える都市サービス機能(公共施設や生活利便施設)が集積する、暮らしやすいコンパクトなまちづくりを進めます。また、緑豊かな景観形成により、日々の生活に潤いをもたらす環境づくりを目指します。

4 交通、防災  
新幹線駅の開業を踏まえ、広域的な移動から日常的な移動、緊急時の移動まで、人・もの・場所を有機的につなげる公共交通を基軸とした快適な交通ネットワークを整備するとともに、災害に強いまちづくりを目指します。

## 3 将来の都市構造

都市の将来像を実現するために、土地利用、都市の拠点、骨格軸を明らかにし、計画的に効果的なまちづくりを目指します。



- 都市の拠点
- 緑の交流拠点
  - 親水拠点
  - 歴史拠点
  - 農文化拠点
  - 温泉文化拠点
  - 広域交流拠点
  - 芸術文化拠点
  - 産業拠点

- 都市の軸
- 広域連携軸 (白抜きは未整備区画)
  - 広域観光軸
  - シンボル軸
  - 都市景観軸
  - 景観軸

### 都市の拠点

都市の拠点	基本方針	資源
緑の交流拠点	自然の恩恵を生かした、自然体験学習や憩い、冒険、スポーツの拠点として位置付けます。	刈安山森林自然公園 トリムパークかなづ
親水拠点	身近に水辺を感じ、生活に潤いややすらぎをもたらす拠点として位置付けます。	波松海岸 北潟湖畔公園、竹田川
歴史拠点	歴史を伝え、次世代に受け継ぐ学びと交流の拠点として位置付けます。	吉崎御坊
農文化拠点	農業風景を背景に、農業を通じて出会い、体験し、交流する拠点として位置付けます。	北部丘陵地、坂井平野
温泉文化拠点	日常と温泉文化、芸術文化が融合し、緑連なる回遊拠点として位置付けます。	芦原温泉街
広域交流拠点	福井県の北の玄関口として、広域的・日常的な都市機能が集積する拠点として位置付けます。	JR 芦原温泉駅周辺
芸術文化拠点	豊かな森林環境の中で芸術文化に触れ、創作を通じて交流する拠点として位置付けます。	金津創作の森
産業拠点	環境と共生し、職住近接型の雇用の場として、都市の活力を生み出す拠点として位置付けます。	熊坂工業団地 金津中部工業団地 古屋石塚テクノパーク

### 都市の軸

都市の軸	基本方針	資源
広域連携軸	石川・富山方面、関西方面、中京方面を結ぶ高規格道路や広域幹線道路は、広域的な人や物の動きを支える広域連携軸として位置付けます。	北陸自動車道 国道8号 国道8号バイパス (都)金津三国線 (坂ノ下～三国市街地)
広域観光軸	加賀市や三国市街地、嶺南方面の自然・歴史資源を結ぶ広域観光軸として位置付けます。	国道305号
シンボル軸	JR 芦原温泉駅を中心として、にぎわいと活力の軸として位置付けます。	(都)金津三国線 (JR 芦原温泉駅～坂ノ下)
都市景観シンボル軸	JR 芦原温泉駅と芦原温泉街を結ぶ都市景観シンボル軸として位置付けます。	(市)金津芦原線 (市)芦原金津線
景観軸	都市の拠点間を快適に結ぶ景観軸として位置付けます。	(主)福井加賀線 (主)福井金津線 (県)芦原温泉停車場中川線 (市)トリムパークかなづ線 (市)滝高塚線 広域農道(フルーツライン)

(主)：主要地方道 (県)：一般県道 (市)：市道 (都)：都市計画道路



お問い合わせは・・・  
土木部 建設課  
☎73-8032

※詳細は、ホームページをご覧ください